皆さん、こんにちは。杉並区長の岸本聡子です。
このたび、令和8年3月30日に、新たな 「東京における都市計画道路の整備方針」が公表されました。
まず、はっきりとお伝えしたいことがあります。
今回の計画で、杉並区内の道路計画の路線が新しく増えたり、変わったりしたわけではありません。
西荻窪の補助132号線、高円寺の補助227号線、そして中杉通りの延伸である補助133号線は、
いずれも前回の第四次事業化計画でも優先整備路線でした。
今回も、その位置づけは変わっていません。
一方で、大きく変えようとしているのが、区としての向き合い方です。
これまでのように、防災などの課題がありながら放置するのではなく、
住民理解が十分でないままトップダウンで進めるのでもない。
対話を通じて、地域ごとにふさわしいまちの姿を一緒につくっていく。
それを、これからの道路整備の基本に据えていきます。
西荻窪では、「（仮称）デザイン会議」を通じて、道のつくり方や、まちのルールについて、
住民の皆さんが主体的に議論を重ねてきました。
高円寺では、防災という避けては通れない課題を軸に、道路整備ありきではなく、
「どうすればまちの魅力を守りながら安全性を高められるのか」を地域の皆さんと考える取り組みを、これから始めていきます。
地域ごとに状況は異なります。
だからこそ、一律ではなく、それぞれの地域で対話を重ねる。
それが杉並区の選択です。
今回、整備方針の策定にあたり都が行ったパブリックコメントでは、
全2,833通のうち、杉並区民から638通、約22%の意見が寄せられました。
区ではこれまで、都市計画道路とはそもそもどのようなものなのかを知っていただくために、
情報提供と対話の機会を重ねてきました。
今回、多くの区民の皆さんが自分たちの暮らしやまちの将来に直結するものとして、
自分の言葉で意見を届けてくださいました。
ここで、ぜひ共有したい考えがあります。
対話とは、決めないことではありません。よりよく決めるためのプロセスです。
防災や交通といった必要性と、これまで育まれてきた暮らしや、まちの個性。
その両方を丁寧に見つめながら、納得できる選択をつくっていく。そのために、対話が必要です。
道路をつくること自体を目的とするのではなく、 そのまちにとって何が最もふさわしいのかを、議論し、決めていく。
私は、この積み重ねこそが、杉並区が目指す住民自治の実現につながると信じています。
皆さんの声に耳を傾けながら、安心して暮らし続けられる未来に向けて、取り組んでまいります。